

<b>Title</b>	医療ソーシャルワーカーであるということ : 報告 2 医療福祉分野から(第 5 回ピア・スーパービジョン)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2222">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2222</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

Seigakuin Repository for academic archiVE



左から増山章子さん、河副美春さん

報告2 医療福祉分野から  
医療ソーシャルワーカーであるということ  
河副 美春

①なぜ、この仕事についたのか？

福祉の仕事につきたいと思ったのは、高校2年生の時の高齢者施設でのボランティアがきっかけである。単純に、誰かの役に立ちたい、「ありがとう」と言われることが励みになるなどの理由から

であった。

医療ソーシャルワーカーになったのは、大学時代に学んだソーシャルワークを相談支援という立場で実践したいという理由から。病院は、高齢の方、障がいのある方、経済的に困窮されている方等々、さまざま方が来院される。そのような現場の中での出会い、人の人生にかかわることができることに、魅力を感じたのだ。病気によって、ひきこるさまざまな壁、思いもよらない事態に、不安や混乱をしている人も多く、医療だけでは解決できないことが多くある。その時にこそ、生活者の視点でかかわるソーシャルワーカーとしての力が発揮される。患者様の言葉、一つ一つに耳を傾け、お話の中から、その人の生き方や今までの暮らしを感じ、患者様の思いを大切にしながら支援していくとても魅力的な仕事であると感じている。

## ②仕事の概要と今抱えている課題

仕事の概要は、入院相談、退院支援、福祉制度の紹介、その他お困り事の相談をおこおり、外来、入院患者様双方の対応をしている。

4月から介護病棟のケアマネジャーの勉強も開始し、ソーシャルワーカーと兼務をしていく予定となっている。

当院は、一般病棟と介護病棟のケアミックスの病院であるため、介護目的の入院希望の相談が多くある。また、最近の退院支援の中では、身寄りもなく、頼れる家族も協力してくれる人もいないというケースが増えてきている。家族のサポートがない中で患者様と協働して前に進んでいく。そのようなかわりの機会を持つことも多い。院内だけではなく、地域とともに、患者様とのかかわりを持っていくことがとても重要となってきている。

今抱えている課題は、院内、院外問わず、「ソーシャルワーカーという存在が認識されていないこと」。この職に就いて一番感じたことだ。「何をしている人たちのの??」と聞かれたことも多々あ

る。やはり、病院は病気を治療するところ、それ以外は特に必要ないという認識が強く、未だに、そのようなイメージでみられているような気がする。病気が故に、今まで通りの生活が困難となりサポートが必要となってくる人が多くいるが、上手くソーシャルワーカーに繋がらない。それは、病院の中に、私達がいる意味が理解されていないということであると思う。病気以外の生活の面で、一緒に考えていけるソーシャルワーカーという存在がいる。その認識がもっと社会に広まればいいと思う。

そのような中で、私自身、一つ一つのケースにきちんと向かい合い、一人でも多くの患者様の不安を軽減していくことに努めている。それ以外にも、私達が存在している重要性を認知してもらうために、事例を地域に発信していくなどソーシャルアクションを積極的に行っていかなければならないと日々感じている。

(かわぞえ・みはる 富士見病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務、社会福祉士、2003年度聖学院大学人間福祉学科卒業)